

登山月報

日本ユース選手権 2013“ミレーカップ”……………1
 超党派「山の日」制定議員連盟発足……………2
 第8回山岳スキー競技日本選手権大会 報告…3
 オーバーナイト・テントフォーラム 2013 を開催…4
 第54回 Mountain World ……………5
 平成25年度競技部総会報告……………6
 JMA、寄贈図書、編集後記……………9

日本ユース選手権 2013 “ミレーカップ”

3月30、31日、千葉県印西市の松山下公園総合体育館において、日本ユース選手権2013“ミレーカップ”が開かれた。日本選手権と同様に、前回まではJFAの主催であったが、今回から日本山岳協会の主催に移行しての開催となった。参加は男女それぞれ4つのカテゴリー(リザルト参照)を合計すると女子79名、男子115名であった。

30日は予選。2本のルートをフラッシング(他人の登りを見ることが出来る)で登り、順位の合計で成績が決定される。グレード(推定)は女子は1本が5.12bで36名が完登、もう一本が5.12cで14名が完登(どちらも男子アンダーユースBを含む)。男子は一本が5.12dで14名が完登、もう一本は5.13aで11名が完登した。

決勝への通過はカテゴリーによって人数が違うが、合計すると女子31名、男子37名が翌日に駒を進めた。

決勝はまず男女のアンダーユースBから。女子はボルダリング・ジャパンカップでも予選を通過した倉菜々子が2位を大きく引き離して優勝。決勝も男子アンダーユースBは女子と同ルートで田嶋あいかの弟、瑞貴がこれまた抜群の成績で優勝した。

女子ユースBでは、その田嶋あいか、重力を感じ

させないクライミングでただ一人完登。文句なしの優勝となった。男子は日比野良祐が津守貴斗を僅差でかわし優勝した。

女子ユースAでは、ボルダリング・ジャパンカップで決勝進出を果たした小武芽生が的確な登りで優勝。

そして男子ユースA。なにせ予選両完登が5名もいる最大の激戦区である。その5名は是永敬一郎、島谷尚紀、野村真一郎、波田悠貴、清水裕登、ほとんどが優勝経験を持つ選手である。さらに、1月の日本選手権で2位となった榑崎智亜も加わる。これだけのつわものが集まったにも関わらず、完登者はなかなか出ない。グレードは5.13b以上ようだ。そんな状況の中、9番手で登場した是永が見事完登。結果全男子のなかで決勝ルート完登は是永のみ。このところ高校生大会4位、日本選手権11位と、いまひとつ成績がふるわなかった是永がみごと復調した。

女子ジュニアでは尾上彩が着実な登りで完登。“ベテラン・ユース”の底力を見せた。高校生大会でただ一人完登し話題となった廣重幸紀は、僅差で水口僚におよばず3位となった。

男子ジュニアはボルダーが強い両名、高田知堯と村井隆一が同高度となったが、予選へのカウントバック



是永敬一郎



尾上 彩



田嶋あいか

で高田が優勝となった。

8月にカナダで行われる世界ユース選手権の出場予定選手の20名中15名程度がこの大会の成績で決定され(各カテゴリー優勝者+1~2名)、残りは6月のジャパンカップの成績により追加される予定だ。

なお私感であるが、今回の特に決勝ルートは男女ともテクニカル、フィジカルのバランスがとれた質の高いものを感じた。セッターチーム(立木孝明、小澤信太、鈴木友希、藤原佑樹)にエールを送りたい。

(文=北山 真 写真=山本浩明)

大会リザルト

女子アンダーユースB

- 1 倉 菜々子(愛知県)
- 2 曾我 綾乃(埼玉県)
- 3 植木 董子(東京都)

男子アンダーユースB

- 1 田嶋 瑞貴(三重県)
- 2 天笠 颯太(神奈川県)
- 3 奥村 優(滋賀県)

女子ユースB

- 1 田嶋あいか(三重県)
- 2 錦織 美里(広島県)
- 3 大場 美和(愛知県)

男子ユースB

- 1 日比野良祐(岐阜県)
- 2 津守 貴斗(山口県)
- 3 豊田 将史(山口県)

女子ユースA

- 1 小武 芽生(北海道)
- 2 義村 萌(三重県)
- 3 竹内 彩佳(千葉県)

男子ユースA

- 1 是永敬一郎(埼玉県)
- 2 島谷 尚季(千葉県)
- 3 野村真一郎(茨城県)

女子ジュニア

- 1 尾上 彩(埼玉県)
- 2 水口 僚(岐阜県)
- 3 廣重 幸紀(福井県)

男子ジュニア

- 1 高田 知堯(鳥取県)
- 2 村井 隆一(千葉県)
- 3 二宮 亮太(千葉県)

超党派「山の日」制定議員連盟発足

「山の日」制定を目指す超党派国会議員連盟が4月10日に発足し、実現に不可欠な国会での取り組みが始まった。同連盟結成の呼びかけ人は谷垣禎一、衛藤征士郎、安住淳、藤井孝男、漆原良夫、柿沢未途、穀田恵二、鈴木克昌各議員の8名。

初会合となった10日の同総会には27名の議員と12名の議員代理が出席した。同日までに連盟参加の申し込みをした議員は、7党派の58名。

総会は務台俊介議員(衆院長野2区)の司会進行ではじまり、先ず呼びかけ人を代表して衛藤議員が開会の挨拶を行い、続いて日本山岳ガイド協会の会長でもある谷垣議員が挨拶に立ち、いま「山の日」を作ることの意義を強調された。

次に会長選出では、谷垣議員が推挙した衛藤議員が全員一致で選出された。

会長に選出された衛藤議員は、「山の日を制定し祝日とする、という会の目的を実現するためにみんなの力を結集したい。」と挨拶。

役員選出は、会長に一任され、呼びかけ人は副会長とすることで承認された。

続いてこれまでの関係団体の活動報告として、山岳5団体でつくる「山の日」制定協議会の成川隆顕代表幹事が「山の日」制定運動の経緯と現況を報告し、磯野剛太幹事が今後の運動の進め方について説明した。

その後、出席された全議員が、それぞれの立場から、山とのかかわり、安全、自然保護、観光、地域活性化などを簡潔に語られた。

次いで出席官庁より「山の日」とのかかわりについて現状を報告した。当日出席した官庁関係者は、環境

省、文部科学省、内閣府、林野庁、観光庁から9名。

「山の日」を祝日にするには、祝日法を改正して国民の祝日に加える必要がある。これまでの改正法案は与野党を含めた議員立法が多く、議連が発足した意義は大きい。

ただ、内閣府によると、国民の祝日は現在15日。2003年の調査では、米国は10日、英国は8日、フランスは13日で、日本は既に他と比べて多い。さらに増やすとなると、企業の営業日、行政機関の開庁日、学校の登校日が減ることなどにも反発が予想されると、国会議員の中にも異論がある。「海の日」が祝日になるまで40年近い歳月がかかったことをみても「山の日」が祝日になるには「相当の時間がかかる」との見方が強い。事務局長について務台議員は「課題は多いが、最終目標は祝日化。山登りと同じで、困難だがやりがいはある」と話した。

議連では百名山に因んで、4月末までに議連参加者を100名にすることを目標とした。

【役員構成】

最高顧問	谷垣禎一
顧問	井上義久、茂木敏充
会長	衛藤征士郎
副会長	安住淳、漆原良夫、柿沢未途、穀田恵二、小坂憲次、鈴木克昌、羽田雄一郎、鳩山邦夫、藤井孝男、吉田博美
幹事長	丸川珠代
事務局長	務台俊介

(敬称略)

(記 尾形好雄)

第8回山岳スキー競技日本選手権大会 報告

4月6、7日の両日、長野県栂池高原スキー場において、第8回山岳スキー競技日本選手権大会兼第6回アジアカップ第2戦が、日本山岳協会主催、長野県山岳協会協力のもと行われた。今年は中国選手団の参加がなかったが、韓国からの6選手を含め、42人の選手が集まった。

6日は受付と開会式、7日に競技が行われた。稀にみる悪天予想のなか、当初予定していた天狗原にかけてのゲレンデ外にコースを設置するのを取りやめ、不慮の変更にも対応しやすいゲレンデ内にコース設定をすることにして準備を進めた。

当日は予想ほどの強風はなかったものの降雨があったため、さらに縮小したコースでレースを実施。成年女子でコース延長約4,500m、総標高差約400m、男子はそれを2周するコースとなった。国際規格の3分の1程度のコースとなり、スピード重視のレースとなった。

競技結果は、男子では北海道の藤川健選手が5連覇。女子では4連覇中であった間瀬ちがや選手の欠場もあり、昨年2位の岐阜の田近郁美選手が初優勝した。田近選手は2月にフランスで行われた世界選手権も経験しており、今後の活躍が期待される。競技コースが短くなったことにより、今年はこの大会が始まって以来初めて、全選手がタイムオーバーにならずに完走できた。

その後、スキー場のレストハウスを借りて表彰式があり、多くの協賛企業からの賞品が全参加者にわり、無事に大会を終了した。

また今大会には大韓山岳連盟(KAF)のリ・インジョン会長、韓国山岳スキー競技協会のリ・ジョンマン会長も来日し、大会視察と日韓の今後の連携について確



認した。

今大会は悪天が予想され大会中止も懸念される中にあっては、最善の運営ができたのではないかと思います。コースは短くなったが、参加者からは不満はあまり聞かれず、よく開催してくれたという労いの言葉を多くいただきました。またそれには、長山協で中心となって動いていただいた大西理事長が、大会前日より現地入りして準備に加わっていただけたことが大きかったと思います。

今回は、本大会始まって以来初めて参加者数が減った。より早く、よりのを得た広報活動をして、参加者増を図っていかねばならない。国際的には世界各地に広がりを見せオリンピック種目化を目指している当競技だが、国内ではいまひとつ盛り上がっていない。これからはいかに一般愛好家を増やしていけるかが課題である。近年のトレランブームを考えると、スキーを使った冬のトレランとも呼べる本競技の潜在的な愛好家は多いと思われる。来年は福島のスキー場を使ってミニレースを開催する企画もあり、一般山スキー愛好家も参加しやすい大会を作っていきたいと思う。

今回は新たに大会ゼッケンとコース旗を、ディナフィットの代理店であるアクタスディストリビューションに作っていただいた。また多くの企業より協賛品をいただいた。予算的に潤沢とは言えない大会運営なので、多くの企業からいただく協賛品は選手への賞品として、大切に使用させていただいた。長山協を中心とした本部役員、40人に及ぶ旗門員の方々、計測やパトロールなどのスキー場地元関係者の方々には、毎回のことながら大変な労をこなしていただきました。みなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。

(記 澤田 実)



オーバーナイト・テントフォーラム 2013 を開催

4月20日(土)から21日(日)にかけて埼玉の長瀬元気プラザで日本山岳レスキュー協議会(代表・西内日山協遭難対策委員長)主催でオーバーナイト・テントフォーラム2013が開催された。

昨年は秋に開催されたが、登山シーズン前に行うのが良いのではとの考えで春に実施した。富士山の登山ブームなどに始まる山ガール、山ボーイの登山がブーム化するとともに若い登山者の事故が増加傾向にあり、こうした若い登山者にどう安全登山をアピールするかという観点から開催されたもので、株式会社モンベルのバックアップを受けて行われた。

開催決定から開催まで十分時間をとったが、協議会が各山岳団体で中心となって活動しているメンバーがほとんどで、専従者もいないため最後は駆け込みで広報宣伝も不十分で若い登山者へのパイプもあまりないため、22名の参加となったが、参加者からは前回同様高い評価を得た。

20日は天候悪化が確実に予測されたので、地図読みからスタートした。室内で労山川嶋事務局長のシルバコンパスの使い方の説明の後、3班に分かれ、金ヶ岳コースで地図読みの実技を行った。道迷いを防ぐためにはどのような状況でも現在地を把握しておくことが重要であり、地形から先を予測しながら、予測通りの地形に到達するかを確認しながら進むことを指導したかったのであるが、地図の使い方よりもコンパスの使い方になった班もあり、地図読み指導の難しさを実感した。

元気プラザに戻ってから分科会に分かれ、労山川嶋氏、藤栢氏と日山協永井氏、瀬藤氏、中丸氏とによるセルフレスキュー、日山協岩切さん、都岳連西野さんによるゆる登山と運動生理学、労山柴山氏、白井氏、日山協町田氏がツリークライミングなどを講習した。ツリークライミングは遊びの要素を取り入れようということと、ロープって面白そうとか、結びでいろいろ変わるというところを感じてもらいたかったのであるが、後の講習でもロープの結びには関心が高かった。運動生理学はぜひ全員に聞いてもらいたい内容であったが、セルフレスキューの希望が多く、希望通りにしたため受講者が少なかった。

今回は元気プラザの食堂での食事となったが、同宿のカブスカウト達が野菜サラダをたくさん残したので

とてもヘルシーな食事となった。雨でナイトウォークを中止し、班別に夜歩く時の注意事項やQ & Aを行ったが、こうした登山者の考えを聞く機会は少なく参考になった。ささやかな懇親会のあと受講生には雨のテント泊を体験して頂いた。

21日は本格的な雨のため体育館で西内代表の安全登山の話と日山協遭難対策事務局長のツェルトなどを使用したビバークの話が行われた。実際にツェルトの中に入るのが初めてという人も多く、中でコンロをたいてその暖かさにびっくりしていた。また、レスキューシートを広げるのが初めての人はシートにくるまって感触を確かめていた。

体験しながら学べるという講習会の形は見えてきたが、協議会主催の講習会だけでは講習の普及は期待できず、どういう体制でどのように実施していくかが課題である。また、参加者は既存の山岳会への入会はともかく、必ずしもグループに入ることに抵抗があるわけではなく、同じ志向のグループで基礎教育のできるグループがあれば入っても良いという声も多い。ただし、そういうグループがほとんど無いので、「山のサークルを作ろう」というような活動と、創立や教育の支援も必要と思われる。(記・遭難対策委員長 西内 博)



実際にツェルトをかぶって休む体験

道迷いを防ぐ
地図読みに出発



運動生理学の話聞く

第54回 Mountain World

エヴェレストは誰のもの？

池田常道

激高したシェルパの一団がウェスタン・クウムで3人のクライマーを襲い、リンチにかけるという前代未聞の事件がエヴェレストで発生した。

シモーネ・モーロ(イタリア)、ウエリ・シュテック(スイス)、ジョナサン・グリフィス(英国)は、無酸素・新ルートの登攀を旨として入山、4月27日、高所順応のためローツェ・フェースの7200mにあるC3に向かった。このテントは、彼ら同様南西壁を狙う、友人のデニス・ウルブコ(カザフ)とセルゲイ・ボロトフ(ロシア)が数日前に設けたものだった。あいにく当日は、公募隊のフィックス工作の2日目にあたり、17人のシェルパが作業に従事していた。モーロらは、彼らの左50～70mの雪面(傾斜35度)をフリーソロし、テントに向かうため上部でロープをまたいだ。リード・シェルパ(サーダー)はこれを咎め、作業を中断して、シュテックに身体をぶつけるように懸垂下降してきた。シュテックはこのときロープにクリップしておらず、きわめて危険な行為だった。そこで多少の口論があったようだが、シェルパたちはこの日の作業を放棄して下降。トリオは残されたロープと用具を使ってあとの260mをフィックスした。

問題はその後だ。C2でトリオを待ち構えていたシェルパたちは80～100人の集団を組んで、彼らを襲ったのだ。アメリカ女性メリッサ・アルノーの機転でメステントに逃れたが、取り囲んだ集団は殴打、キック、投石を繰り返し、割って入った少数の欧米人も負傷した。トリオはその後、シェルパと遭遇する危険を避けて、ロープなしで別ルートからBCに退避、シュテックはヘリでカトマンズまで飛んで病院で傷の治療を受けた。事態を重く見た当局は数日後BCで手打ち式を演出、問題を起こしたサーダーを追放し、両者に和解文書への署名を求めて決着を図った。

しかし、目撃者による報告が公表されるにしたがって、事態の深刻さが浮かび上がってきた。サーダーは、モーロたちが氷塊を落としてシェルパを負傷させたと言った主張したが、現場はステップカットするような氷壁ではなく、実際負傷したシェルパもいなかった。

サーダーは、モーロたちに侮辱されたと受け取った



ローツェ・フェースを登るウエリ・シュテック(左)、右はフィックス工作中的のシェルパチーム。

ウエリ・シュテック提供

ようだ。公募隊の間では、シェルパがロープを張るまで隊員たちは先に出ないという申し合わせがある。しかし、これは公募隊同士の了解事項であって、独自に行動するクライマーまで束縛するものではない。モーロたちはエヴェレスト西稜とローツェの許可を持っていたから、ローツェ・フェースを上下するのはなんの不思議もない。しかも、先述したようにウルブコらが数日前すでにC3を往復しているのだ。

シェルパたちが過剰に反応したのは、自分たち(の固定ロープ)を必要としない人間が突然目の前に現れて、やすやすと彼らを追い抜いて行ったからだろう。当日は寒風がふきすさび、ルート工作が思うように進まない苛立ちもあったかもしれない。彼らが日ごろ接してきたのは、もっぱら経験の浅いユマール登山者であり、賃金を払ってくれる相手なのだ。公募隊でしか経験を積んでいない若いシェルパたちには、エヴェレストだけが山なのだ。シェルパに頼らないクライマーを敵視する素地が、いつの間にか出来上がったのであろう。まして、自分たちが放棄したルート工作を完遂されてしまったとあっては面目丸つぶれ、火に油をそそぐ結果になったのではないか。

スティーブ・ハウス(米)は、かつてマカルーでルート工作中的のシェルパといさかいがあったことを認めている。南北両面からエヴェレストに登ったことのあるナチョ・オルビス(スペイン)は、クライアントをつれたシェルパの一団にアイゼンで蹴られ、ルートから押しつけられようとした経験を述べている。

公募隊という巨大ビジネスの下で、シェルパたちはエヴェレストを我がもののように思うようになった。そんな増長ぶりが今回の事件に結びついたのだ。モーロたちが生命の危険にさらされていたとき、間に入って守ろうとした公募隊リーダーたちがほとんどいなかった事実も改めて記しておく価値があろう。

平成25年度競技部総会報告

日時：平成25年4月7日(日) 10時30分～16時30分

会場：岸記念体育館504～505号室

出席者：高山雅夫、北山真、寺内丈行、太田忠行、松田龍彦、滝内壽一、佐藤豊、東秀磯、平林高志、京才昭、西原斗司男、目次俊雄、山本和幸、西嶋久貴、三森一男、小野倫夫、四戸義継、畠山晃、斎藤昌之、木村実、佐久間利美、赤松久宇、土屋正昭、渡辺真二郎、今井浩二、浮須由実、畑中渉、岸健次、上木真吾、諸戸明、佐原晴人、松尾浩志、邨瀬一弘、小林広幸、石川順一、前田善彦、白子欽也、山田佳範、大櫃静雄、福谷陽一、古林喜明、明上邦彦、椎野彰浩、松崎文彦、斎藤弘毅、瀧石裕一、蛭川信一

その他：傳智則（東久留米市国体部主管）

委任：阿部茂雄、松本一志、乃一広志、新原孝喜、武末良樹

欠席：宮城県、京都府、宮崎県、沖縄県

前日までの天気予報では大荒れの予想であったが、総会当日の朝は風が強かったものの、雲ひとつなく暖かな日を迎えることができた。全国から37都道府県の競技委員と5名の委任届を受け、平成25年度競技部総会が開催された。

開会に先立ち、神崎会長が「山岳スキー競技日本選手権大会」へ出張のため代理として、高山競技委員長より、「日山協は公益社団法人となり、各事業での赤字を出さないように独立採算に務め、スポンサーの獲得等を通じて事業を行うように、また、今年度からこれまでの競技委員会ではなく、競技部会となります。今後はメーリングリストを有効に使うことで連絡や意見交換を行いたい。」と挨拶があった。

議事進行は、滝内壽一常任委員が執り行った。

議案1 平成24年度競技部事業報告について

滝内常任委員から①競技委員総会②競技委員会③競技会運営事業報告を行い、北山常務理事から④競技力向上事業報告を行い、全会一致で承認された。

議案2 平成25年度競技部事業計画について

滝内常任委員から①競技委員総会②競技委員会③競技会運営事業計画④競技部ブロック別研修会⑤第69回長崎国体以降の指導と推進⑥国体山岳競技の改革とその基本的な取組⑦日山協公認クライミング審判員、ルートセッター、競技運営員の認定更新業務の推進⑧日体協公認山岳コーチ・山岳指導員（クライミング）の検定業務の推進⑨ドーピング防止への取組について

説明があり、北山常務理事から⑩競技力向上事業計画について説明があった。

個々の事案については、議案7以降で審議することとして、承認を得た。

岩手県から、「第71回岩手国体」は昨年までは東日本大震災の影響で規模を縮小しての開催予定であったが、今年度より、復興も進みつつある中で、従来通りの開催に向けて進めている発言があった。

議案3 第68回「スポーツ祭東京2013」準備状況報告

都岳連の西嶋委員より会場の全体図を提示して説明があり、その後、開催地・東久留米市国体部傳主幹より会場地の歴史的、地理的及び東久留米の著名人などの紹介や国体開催時の輸送計画、宿舍等についての説明があった。

議案4 次期開催県準備状況について

高山委員長より全体的な説明があり、①第69回長崎国体の準備状況については、松崎・長崎岳連競技委員長から長崎国体開催日は、例年より少し遅れて10月17日から19日までとなる。これは長崎最大の祭り、「長崎おくんち」が10月上旬に開催されるためとの説明があった。リード競技場は長崎県立大村高校敷地内で、既に出来上がっているが、ボルダリング施設はこれまでの国体ではなかった大型仮設テントでの屋外型ボルダリング競技場を設営する旨の説明があった。また、リード競技場とボルダリング競技場は国道34号線を跨いでの会場となり、歩道橋等の施設がないので役員を配置し、選手、役員、観客等の移動には細心の注意を払って事故のないように務める旨説明があった。

和歌山国体については、白子・和歌山岳連競技委員長から会期は平成27年10月3日～5日開催を予定しており、競技場については当初は県立南部（みなべ）高校の敷地内にリード競技場を設置し、ボルダリング競技場は車で移動しても10分ほど離れた場所の予定であったが、運営上問題があるとして、リード競技場と隣接する別の場所にボルダリング競技場を設置するように求めている。ただし、これも長崎と同様道路を挟んでいるが、道路は長崎県ほど広くはなく、交通量もそれほど多くはないことから、移動に際しては大きな問題にはならないと考えているとの説明があった。

議案5 日山協競技部の組織改編について

高山委員長より「変わる！日山協」のパンフレットを提示：日山協は新体制となり、競技委員会は競技部となり、競技運営委員会、技術（審判）委員会、選手

強化委員会の3本柱で今後は事業推進する。基本的にはこれまでとはあまり変わらないと説明した。

議案6 平成25年度(東京国体)からの国体山岳規則集の一部改訂について

太田常任委員よりこれまでの規則集との対比を記載した書面を配布し、特に注意する事項について説明があった。

議案7 ブロック別研修会の隔年開催の実施について

高山委員長より収入より支出の方が多く、毎年赤字なので、隔年に開催したい旨説明があった。

これに対して、地方委員からは、

○新しい情報を得る機会であるので、毎年開催は継続して欲しい。

○参加者を増やす方法としては国体監督は参加することを義務付ける方法等もある。

○赤字だからやめると言う発想がおかしい。

○これだけ重要な案件は事前に資料を配付するなどの方法が必要だ。

○日本陸連では、(自分も持っているのだが)審判員は毎年研修会に出ないと更新できない。そこまで厳しくはないとしても、2年に一度の参加を義務付けることも考えて良いのでは。

○日山協として予算がないからと言って、国体の資格、伝達の機会を削って隔年にするというのは本末転倒ではないか。日山協へは全国の岳連から毎年加盟費を支払っている。重要な事業なのに赤字だから隔年開催はおかしい。

○隔年実施としながら、10名参加以上でないと開催しないのは、北信越、東海、四国ブロックのように4県と少ないブロックと関東ブロックのように8都県と同じにはならない。関東は2県参加せず10名以下だ。

○今年参加していない県からの意見はないのか。など多くの反対意見があった。

○隔年にこだわらず、ブロックまたは県岳連からの要求があったブロックのみ開催する。

○国体や競技の新しい情報を伝達するためには国体競技運営研修は必要性が高い。

○新たに認定が必要なブロックとりわけ国体開催直前の岳連などは特別研修と言う形で開催している。

◎この辺を考えて

①競技運営研修は毎年行う。

②競技運営員認定講習やC級審判認定は、その時の必要に応じて随時行えば良いのではないかな。

③そうすれば9ブロックに派遣する講師は毎年1名で済む。

④運営研修は新しい情報を得るためにも中央派遣が必要だが、認定研修はそのブロックの中で規則集を理解している人が講師をすれば派遣費がほとんどかからないのではないかななどの意見もでた。

これらの意見に対して、高山委員長より、①開催人数については、多いブロックは10名以上、少ないブロックは5名以上で開催する。②全国の考え方を挙手で決めたい。と、意見集約した結果、

◎競技運営講習会は、毎年実施する。その場合、都道府県岳連は、競技委員長+監督は必ず参加する事を決定した。また、名称についても、これまでの運営研修ではなく、「競技委員長・国体監督合同会議(仮称)」とし、認定研修のあり方、審判員研修のあり方は、今後の検討課題とした。

議案8 日山協選手登録方法の変更について

高山委員長より平成26年度から都道府県の予選会から選手登録費の徴収をしたい。また、高体連についても平成27年度までに何らかの形で選手登録制を敷き、登録料の徴収をしたいと説明があった。

これについて、参加委員からは、高体連での他の競技では4月に入学しそれぞれのクラブに入部した時点で全員選手登録をするが、登山に関しては日山協に選手登録のシステムがなかったため、これまで登録をしていない。中央競技団体が登録制をとれば、高校生からの選手登録は可能である。高体連から選手登録が可

大ネパール展 Great Nepal Exhibition 2013

エベレスト初登頂60周年を記念して「大ネパール展」が開催されます。

この企画は、駐日ネパール大使館主催で山岳6団体と日本ネパール協会が協力して開催します。

期 日：6月1日(土) 10:30開場 ~2日(日) 19時閉場

会 場：東京タワー1階A2ホール及び4階Cホール

1階：A2ホール

ヒマラヤ写真展、植村直己遺品展、ネパール舞踏と音楽、ネパールパザール、ネパールレストラン、トラベルフェア

タワー外階段

タイム・ザ・タワー(東京タワーの外階段を使用し、大展望台まで歩いて登ります。途中にベースキャンプ、クレバス帯、サウスコル、ヒラリーステップなどの写真を配置。終了点にはエベレスト頂上のパノラマ写真を置き、遠征隊参加賞を渡します。)

4階：Cホール

シンポジウム(エベレスト・サミッター、ネパール・ツーリズム)、フィルムショー(エベレスト初登頂、日本隊初登頂)、ネパール・ツーリズム・セミナー

能となれば、仮に1人1,000円としても全国で4,000人の高体連登山部のメンバーがいるので、年間400万円になる。しかし、その前に日山協が高体連に何をしてくれるのか、ただ金銭的な徴収だけでは納得できない。ゼッケン等の販売を登録料に代えるなどの意見があった。また、高校生が国体の県大会に出るのはせいぜい2～3割程度なのに全員から登録料を徴収するのは難しい。大会の参加有無に関わらず、選手登録は当たり前。クライミングも高校生が増えているので、高体連で選手登録をすることは当たり前。どこの団体にも所属していないクライマーに対して選手登録はどうなるのか？等々。様々な意見が出た。これについて高山委員長からは、26年度から都道府県予選から選手登録をすることを義務付けることとし、高体連は今後の調整も含めて27年度位からクライミング・登山競技とも都道府県予選から選手登録ができるようにしたい。また、選手登録は日山協で個々に取るのは事務能力上困難であり、岳連でまとめて登録して欲しい旨の要望があった。

議案9 ルートセッター全国研修会の交通費半額補助、宿泊費補助の廃止について
高山委員長より説明があり、承認された。

議案10 平成25年度日山協公認クライミング審判員・ルートセッター・競技運営員の認定、登録について
高山委員長より説明があり、承認された。

議案11 日体協公認山岳コーチ・山岳指導員（クライミング指導員）制度について
高山委員長より、今後オリンピック種目となれば、現状の山岳指導員、上級指導員では対応できず、最低でも上級コーチ資格の取得が必至となるので、そのための体制作りを始めなければならない旨説明があった。

議案12 平成25年度日本代表選手の選考方法について
北山常務理事から説明があった。また、日体協の提案している予選会免除選手については、今年度4月末までに日体協へ氏名の提出をしなければならないので、リードは日本選手権、ボルダリングはジャパンカップまでで、6月のリードジャパンカップの結果は間に合わない。国体の実績も含んだ昨年の実績を考慮したい旨説明があった。

議案13 リードジャパンカップ東京大会要項について
西嶋常任委員（東京）より説明があり、承認された。

議案14 第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
土屋常任委員（埼玉）より説明があり、承認された。

平成25年度遭難対策委員会 総会・研修会のお知らせ

期 日 6月29日（土）～30日（日）
会 場 大阪リバーサイドホテル
大阪市都島区中野町5-12-30
<http://www.osaka-riverside-hotel.co.jp/>
参加費 13,000円（1泊2食代、懇親会費含む）
※日帰り参加費は、1,000円

日 程

- 6月29日
 - 12:30 受付開始
 - 13:00 講演「道迷いを防ぐ」（村越眞氏）
 - 15:00 「道迷いを防ぐ」グループ討議
 - 6月30日
 - 8:00 当日受付開始
 - 8:30 遭難対策委員総会
 - 9:30 U I A A 報告
 - 10:30 第10回山岳事故調査報告
 - 12:00 閉 会
- （問合せ・申込み） 日山協事務局まで

平成25年度国際委員総会及び 第32回海外登山遭難対策研究会のお知らせ

期 日 6月22日（土）～23日（日）
会 場 八王子セミナーハウス
<http://www.seminarhouse.or.jp/>
参加費 9,000円（1泊2食代・資料代）
※日帰り参加費は、2,500円
※別途懇親会費3,000円（当日徴収）

日 程

- 6月22日（土）
 - 14:00 受付開始
 - 14:30 国際委員総会
 - 15:30 講演「各国のヘリコプター事情」
(貫田宗男氏)
 - 6月23日（日）
 - 9:00 海外登山遭難対策研究会
講演「ガイド登山の実情」(近藤謙司氏)
講演「立山、劔岳の水河」(飯田 肇氏)
 - 11:40 閉 会
- （問合せ・申込み） 日山協事務局まで

議案15 トレイルランニング競技指針について

平林常任委員よりトレイルランニングの定義等について説明があり、引き続き日山協として開催するためのデータ等の収集と研究を行うことで承認された。

高山委員長よりトレイルランニングを日山協で開催できれば選手登録だけでも膨大な収入となる。

議案16 国体山岳競技地区別出場都道府県割当数に

ついて

太田常任委員から平成30年までの割当数について説明があり、承認された。

その後、目次常任委員から議案とは別に、①国体ブロック別出場枠の見直し②国体リード競技のチーム順位算出方法の変更の2点について説明があった。

(文責・寺内丈行)



平成25年度4月(25年4月)常務理事会報告

日時 平成25年4月11日(木)
17:30~20:35
場所 岸記念体育会館504会議室
出席者 神崎会長、八木原、國松副会長、尾形専務理事、西内、佐藤、石倉、高山、水島、北山、相良、寺内、永井、堀井各常務理事
委任 松元副会長、仙石、谷口常務理事(17名中14名出席)

1. 専門委員会動静

3月常務理事会以降
(2月28日~4月10日)

[報告]

(1) AD委員会

3月3日(日) 出席者6名
ア 公益法人移行後の日山協の組織について
イ ドーピング防止委員会の今後の活動について
ウ 平成24年度ドーピング防止活動報告
・24年度検査実績 ICT 20検体 OCT 7検体
・RTPA 4名 講習会を実施
エ 平成25年度計画(検査、RTPA等)について
オ ドーピング防止の啓発資料について

(2) 指導委員会

3月4日(月) 出席者10名
ア 2月常任委員会議事録確認
イ 平成24年度評議員会報告
ウ 3月常務理事会(2/28)報告
・ハイキング・リーダー制度の中間報告を行う
エ 氷雪技術研修会報告
オ 指導者マスターの推薦について
・切嶋良、佐原晴人、井上邦彦の3名を推薦
カ ハイキング・リーダー制度検討会について
キ 指導員養成講習会のアンケートについて
ク ワールド・ゲームズ・フェアへの派遣について

・3/16 国営昭和記念公園
ケ 指導者認定申請について
・AC上級指導員:東京4名
・AC指導員:神奈川2名、新潟11名
コ 氷雪技術研修会(富士山)について
サ コーチ検討会について
(3) 普及ジュニア委員会
3月4日(月) 出席者4名
ア ジュニア普及情報交換会の報告
イ ジュニア登山教室「那須甲子雪遊び隊」下見報告及び準備について
ウ 平成25年度中高年安全登山指導者講習会の内容について
エ 第53回全日大会(徳島)について
(4) 国際委員会
3月12日(火) 出席者11名
ア 第51回海外登山技術研究会の反省と今後の在り方について
イ 平成25年度委員総会と第32回海外登山遭難対策研究会について
・6/22~23、八王子セミナーハウス
・各国のヘリコプター事情、ガイド登山の実態
ウ 平成25年度国際委員について
エ 2014 U A A A 創立20周年記念総会について
・主管:広島県山岳連盟
オ 第8回山岳スキー競技選手権大会の協力について
(5) 自然保護委員会
3月19日(火) 出席者15名
ア 2月常任委員会議事録の確認
イ 3月常務理事会報告
ウ 総合的山岳環境保全対策推進に係る検討会報告
エ 山岳団体自然環境連絡会報告
オ 新腕章・新登録証の作成と更新について

カ 総会及び常任委員研修会の開催
地下見報告

キ 山岳自然保護の集い・中央大会
実施要項について

ク 常任委員研修会について
ケ 自然保護指導員の登録について

(6) 遭難対策委員会
3月20日(水) 出席者11名

ア 新しい探索機器について
・オースジャパン社製の機種紹介

イ オーバーナイト・テントフォーラムについて
・4/20(土)~21(日) 長瀬元気プラザ

ウ 遭難対策常任委員研修会
・5/11(土)~12(日)

エ 上尾市スポーツ総合センター
平成25年度事業について

・委員総会(6/29~30、大阪リバー
サイドホテル)

・レスキュー講習会(8/23~25、
国立登山研修所)

・全国山岳遭難対策協議会
(7/3、文科省講堂)

オ 公益社団法人移行に伴う組織改
革の方向性について

カ ジュニア向け雪遊びの実施につ
いて

(7) 競技委員会
3月21日(木) 出席者16名

ア 競技委員会の組織改編について
イ 平成25年度の競技部会議につ
いて

ウ 選手登録費の改定について
エ ブロック研修会の隔年開催につ
いて

オ 3月常務理事会報告
カ 第8回ボルダリング・ジャパン

ケニア山レナナピークでの高所順応がキリマンジャロ登頂への鍵

ケニア山レナナピークとキリマンジャロ登頂、
アンボセリ国立公園サファリ 14日間

発着地 東京・大阪 旅行代金 ¥684,000~¥698,000

出発日 7/18(木)・8/22(木)・9/5(木)・9/12(木)

※燃油サーチャージ(2013年4月25日現在:目安約49,000円)が別途必要です。
旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコフ保護会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com



ご存知
ですか？

～日本山岳協会山岳共済会会員様限定～ 「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険」のおすすめ

約52%
割引!!



●このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細はパンフレット「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険のご案内」をご覧ください。(パンフレットは日山岳協会山岳共済事務センター宛ご請求ください。)

この保険の主な補償内容

- ・登山中のケガで死亡された場合 (※加入タイプによってはケガによる入通院を補償対象とすることができます。)
- ・登山中に遭難し、遭難・捜索費用や救援者費用が発生した場合 等
- ・なお、登山・ハイキング中だけでなく、日常生活や業務中に起こった傷害事故も補償の対象となります。

この保険のご加入条件

- この保険は「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。お申込人(=被保険者(補償の対象者))となれる方は「日本山岳協会山岳共済会会員」のみとなります。
- 会員になる為の手続き方法は、山岳共済会ホームページ掲載の「山岳共済会のしおり」をご確認ください。(毎年別途会費が必要です。)

補償内容・保険料表 (詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。)

～「登山コース」の保険料例～

職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

入院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)
1Bセット・1Cセットなら、1年間1万円前後の保険料でケガによる
入院にも備えることができます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ							
	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
死亡・後遺障害	100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	235万円	500万円	500万円
遭難捜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院保険金日額	1000円	なし	1000円	なし	1500円	なし	2500円	なし
入院を伴う手術保険金※1	○		○		○		○	
通院保険金日額	600円		600円		900円		1500円	
賠償責任	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
保 険 料	6,450円	3,900円	8,260円	5,710円	11,540円	7,720円	23,940円	17,570円

※1 手術保険金は、入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払します。

～「ハイキングコース」の保険料例～

職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

通院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)
IIセット・新設のIIIセットなら、ケガによる通院にも備えることができ
ます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ		
	I	II	III
死亡・後遺障害	150万円	250万円	300万円
救援者費用	300万円	300万円	500万円
賠償責任	1億円	1億円	1億円
入院保険金日額	2,000円	4,000円	5,000円
入院を伴う手術保険金	入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払いします。		
通院保険金日額	なし	1,500円	2,500円
保 険 料	2,140円	5,470円	7,540円

新設しました!

- 「登山コース」は、ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中の事故を対象としております。一方、「ハイキングコース」は前記の登山用具を使用しない普通の登山(ハイキング等)中の事故を対象としています。
- このチラシの保険料は一例です。ご加入者様のご職業によって保険料が異なります。詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。
- どのタイプでもご加入できますが複数タイプ・セットのお申込みはできません。(全ての加入タイプ・セットのうちいずれか一つのみ選択可能。)
- 保険金額はご加入いただいた被保険者の人数に従った割引率で決定されますので、募集の結果上記と異なる保険金額に変更される場合があります。この場合、死亡・後遺障害保険金額を割引率に応じた金額とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 保険期間は平成25年4月1日～平成26年4月1日となります。毎月、パンフレット掲載の所定の日付での中途加入も受け付けております。

お問い合わせ及びパンフレット請求先: 日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金 10:00～17:00(土・日・祝祭日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ホームページ <http://sangakukyousai.com>

契約者: 日本山岳協会山岳共済会

取扱代理店: 瀬田工業有限会社

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

承認番号: B12-102339 使用期限: 2014.4.1

カップ報告
 キ ユース日本選手権の準備状況
 ク 第8回山岳スキー競技日本選手権大会について
 ケ アイスクライミング開催予定地(北海道下川町)現地視察報告
 コ トレラン小委員会報告
 (8)指導委員会
 4月1日(月) 出席者9名
 ア 3月常任委員会議事録確認
 イ 3月常務理事会報告
 ウ 修了書の発行について
 ・AC上級3名、AC指導員3名、SC上級1名、SC指導員66名
 エ コーチ検討会(3/31)の報告
 ・前半:6/22(都岳連会議室)、6/23~24(東京海員会館)
 ・後半:7/13~15(東久留米 or 昭島)
 オ マスター推薦について
 ・切嶋良、佐原晴人、井上邦彦の3名を推薦

カ ハイキングリーダー検討委員会報告
 キ ワールド・ゲームズ・フェア(3/16)の報告
 ク 氷雪技術研修会について
 ・4/28~29、富士山
 ケ 常任委員研修会について
 ・4/6~7、神奈川山岳スポーツセンター
 コ 平成25年度指導員総会について
 ・6/8~9、東京海員会館
 サ 主任検定員(A級、B級)養成講習会(大山)の判定について
 (9)国際委員会
 4月9日(火) 出席者15名
 ア 国際委員総会及び海外登山遭難対策研究会について
 ・各国のヘリコプター事情、立山・剣岳氷河の話、ガイド登山の実態
 イ 平成25年度国際常任委員について
 ウ 国際委員長選出について
 エ エベレスト初登頂60周年記念(日本開催、6/1~2)について

2. その他の重要事項

(2月28日~4月10日)

【報告】

- (1)平成24年度第1回JISS-NFドクター協議会 3月1日(金) 於:味の素ナショナルトレーニングセンター 堀井常務理事
- (2)九州ブロック競技研修会 3月2日(土)~3日(日) 於:福岡 松田、目次常任委員
- (3)東海ブロック競技研修会 3月2日(土)~3日(日) 於:静岡 高山常務理事

- (4)総合的山岳環境保全対策推進に係る検討会 3月5日(火) 於:環境省第8会議室 石倉常務理事
- (5)UIAA登山委員会 3月9日(土)~10日(日) 於:スロベニア 青山常任委員
- (6)IFSC総会 3月9日(土)~10日(日) 於:中国・上海 小日向常任委員
- (7)日体協競技団体評議員連合会総会 3月11日(月) 於:岸記念体育会館 尾形専務理事
- (8)長野県山岳遭難防止対策協会“シンボルキャラクター任命”記者発表 3月13日(水) 於:都道府県会館 神崎会長
- (9)JOC総務委員会第2回総会 3月14日(木) 於:岸記念体育会

- 館 尾形専務理事
- (10)和歌山県国体役員講習会 3月16日(土) 於:和歌山 西原常任委員
 - (11)ワールド・ゲームズ・フェア 3月16日(土) 於:国営昭和記念公園 有枝、西嶋、中村常任委員、中川 事務局長
 - (12)山岳7団体自然環境連絡会 3月21日(木) 於:労山 松隈、徳永常任委員
 - (13)パキスタン・ナショナル・デー・レセプション 3月21日(木) 於:ホテル・オークラ東京 尾形専務理事
 - (14)内閣府より公益社団法人の認定書交付(着信) 3月22日(金)
 - (15)(公財)スポーツ安全協会評議員

寄贈図書

寄贈本	山と溪谷社 (株)ナカニシヤ出版	「入門&ガイドシリーズ 沢登り」手嶋享とトマの風 編著 江崎善晴 図 「世界遺産 春日山原始林-照葉樹林とシカをめぐる生態と文化-」前迫ゆり編
DVD	NPOワールドゲームズ協会	「ワールドゲームズ紹介動画」
雑誌	山と溪谷社	「CLIMBING JOY」No.10
	東京新聞出版局	「岳人」No.791 2013 5月号
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.937 2013May
	国立スポーツ科学センター	「JISS News Letter Vol.24」
	(財)福岡コンベンションセンター	「FCCnews」47 spring 2013
	六つ星山の会	「六つ星だより」96
	FECC	「Vertex」No.246
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第550号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第402号
	横浜山岳会	「山」970号 2013年4月
会報	NPO日本スポーツ芸術協会	「Sport Art 2013」March2013
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.420
	(公財)全日本ボウリング大会	「JBC news」第497号
	(公社)日本山岳会	「JAPANESE ALPINE NEWS」Vol.14 2013
	(財)尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬Vol.21」
	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」No.464
	大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.196
	三峰山岳会	「岩つばめ」No.341
	2012TJAR実行委員会	「トランス JAPAN アルプスレース大会報告書」
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉 Sports」260号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.282
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」第205号・68号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.172 2013 April
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.459 2013 5月号
	(公財)富山コンベンションビューロー	「とよま夢大陸」Vol. 92
	中国登山協会	「山野 中国戶外」2013.02/03
	大韓山岳聯盟	「KOREAN MOUNTAINEERING ANNUAL」2013
	白河山岳会	一里瀧 37号
	(公財)大崎企業スポーツ事業研究助成財団	「企業スポーツ」2013春
	(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部	「登山部報」平成24年度 No.56
おいらく山岳会	「山行手帳」No.640 '13.4	
(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第61号	
NPO日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.89	
岡山県山岳連盟	「岡山岳連」第209号	
やまびこ山想会	「やまびこ」第147号	
(公社)日本山岳会	「山」No.815 2013年4月号	
東京野歩路会	「山嶺」No.998	
おいらく山岳会	「山行手帳」No.641'13.5	
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第398号	
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第304号	
福岡県山岳連盟	「せふり」No.356	

- 会 3月22日(金) 於:東海大学
校友会館「望星の間」 神崎会長
- (16)三役会 3月22日(金) 於:スポー
ツマンクラブ 神崎会長、内藤、
國松、八木原、松元副会長、尾形
専務理事
- (17)中国ブロック競技研修会
3月23日(土)~24日(日)
於:岡山 西原常任委員
- (18)関東地区山岳連盟会長会議
3月27日(水) 於:岸記念体育会
館 神崎会長、尾形専務理事
- (19)「山の日」制定協議会
3月27日(水) 於:日本山岳ガイ
ド協会 尾形専務理事
- (20)ジュニア登山教室「なすかし雪遊
び隊」 3月27日(水)~28日(木)
於:国立那須甲子青少年自然の家
本木顧問、西内常務理事、松
隈事務局員
- (21)ユース日本選手権大会 3月30
日(土)~31日(日) 於:印西市松下
公園総合体育館 神崎会長、八
木原副会長、北山、高山常務理事
- (22)公益社団法人設立登記
4月1日(月)
- (23)ネパール大使レセプション
4月5日(金) 於:ネパール大使公
邸 神崎会長、八木原副会長
- (24)日本山岳写真協会会長・羽田栄
治氏逝去。 4月5日(金)
- (25)第8回山岳スキー競技日本選手
権兼2013アジア選手権第2戦
4月6日(土)~7日(日) 於:梶池高
原 神崎会長、八木原副会長
- (26)平成25年度競技部総会
4月7日(日) 於:岸記念体育会館
高山、寺内、北山常務理事
- (27)「山の日」制定議員連盟発会式
4月10日(水) 於:衆議院第一議
員会館 神崎会長、尾形専務理事

3.議事

- (1)平成24年度3月常務理事会議事
録の承認について(承認)
- (2)平成24年度第2回理事会議事録
の承認について(承認)
- (3)平成24年度臨時総会議事録の承

- 認について(承認)
- (4)2013年日本代表選手について(提
案通り承認)
- (5)平成26年度勲章及び褒章候補者の
推薦について(該当者無しで承認)
- (6)大ネパール展への協賛について(承認)
- (7)「トップアスリートの国体参加資
格の特例措置」対象者について(提
案通り承認)
- (8)報告事項
ア 会計月次
イ 平成25年度自然公園指導員表
彰候補者の推薦について(千葉・
小川秀樹氏を推薦)
- ウ 平成25年度叙勲内示の報告(田
中文男顧問の旭日小綬章)
- エ U A A A 創立20周年記念総会
について(企画案を報告)
- オ 「山の日」制定協議会について
(超党派「山の日」制定議員連盟の
発足報告)
- カ 参与委嘱終了の質問状について
(経緯報告)
- キ 競技部総会の報告

4.後援、協賛等の依頼について

- ア「白山単独越冬、伊藤仁夫の挑戦」
出版記念フォーラムの後援名義(福
井県山岳連盟主催)(承認)
- イ「第14回K A Z Oクライミングカッ
プ2013」の後援名義(埼玉県山岳
連盟主催)(承認)
- ウ「第19回クライミング・コンペ・
オール神奈川」の後援名義(神奈川
県山岳連盟主催)(承認)
- エ「第5回ジャパンユースカップ」の
後援名義(ユースクライミングを
応援する会主催)(承認)
- オ「トランスジャパンアルプスレー
ス2014」の後援名義(T J A R 実
行委員会主催)(承認)

5.報告

- (1)自然保護指導員の承認 なし
- (2)指導員の認定承認
①S C指導員 なし
②S C上級指導員 なし
③アルパイン指導員

- 岩手:渡辺良平、寺内宏普、久保
賢治、千葉真英(以上4名)、神
奈川:日比野高明、富岡雅美(以
上2名)、新瀨:笹川徹、中村義雄、
井関巖、五十嵐幹雄、荒川勇、小
野島守、大平美紀、渡辺康博、山
口晋平、堀口寿彦、西口達也(以
上11名)(以上17名を承認)
- ④アルパイン上級指導員
東京:北島英明、建部雅史、福田
晴子、林満(以上4名)
(以上4名を承認)
- (3)主任検定員の認定承認
①A級主任検定員認定者
(鳥取県大山会場)
宮永幸雄、坂口仁治、江本正彦、亀
田行宣、松村隆浩(以上5名)(承認)
- ②B級主任検定員認定者
(鳥取県大山会場)
齋藤弘毅(以上1名)(承認)

6.連絡事項

- ①平成25年度5月常務理事会
4月25日(水)17:30~(岸記念体
育会館504号室)
- ②平成25年度第1回理事会
5月11日(土)10:30~(岸記念体
育会館101~103号室)
- ③平成25年度定時総会
5月26日(日)10:30~(岸記念体
育会館101~103号室)
- ④平成25年度第2回理事会
5月26日(日)15:00~(岸記念体
育会館101~103号室)

編集後記

今年の大規模連休中の山の事故は、
NHK報道によれば死亡15人、不
明者1人、長野、岐阜など全国で
67件発生した。山岳関係者は再発
防止の為の検証と注意喚起が必要
だ。(広報担当 水島彰治)

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和時「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 上野原トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第530号

定価 100円(送料別)
予約年間 1,200円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月一回15日発行)

発行日 平成25年5月15日
発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395